

信念の道に光

県内褒章受章者 喜びの声

業界の発展や社会福祉に力を尽くした秋の褒章の受章者たち。黄綬褒章に輝いた大垣西濃信用金庫理事長の栗田順公さん(63)＝養老郡養老町＝と、藍綬褒章を受けた民生・児童委員の江崎隆雄さん(86)＝本巣市＝が、それぞれの取り組みについて思いを語った。

藍綬褒章・社会福祉功績

民生・児童委員

江崎 隆雄さん(86)



「後進の育成に力を入れたい」と語る江崎隆雄さん
＝本巣市役所

子どもの未来を守る

「先輩や現在の委員、行政関係者らの支援のおかげで代表して頂いた」と語る。1998年から民生・児童委員を務め、地域福祉に貢献してきた。主に地域の子どもの登下校時の見守り活動に励み、「子どもは将来を担う地域の宝。安全に学校に通ってほしいとの一心で活動している」と強調。「子どもたちと触れ

合つことで元気ももらっている」と笑顔を見せる。
1人暮らしの高齢者のほか、障害者らの支援にも取り組み、時には旧労働省の職員として長く労働行政に携わった経験も生かした。「困っている人を支援することで、安心して生活を送ってもらえることが生きがい」と力を込める。
本巣市民生委員児童委員連合協議会長や同市社会福祉協議会理事なども務めており、「後進の育成に力を入れたい」と先を見据える。同市軽海。

黄綬褒章・業務精励

大垣西濃信用金庫理事長

栗田 順公さん(63)



「引き続き職員の教育に努める」と語る栗田順公さん
＝大垣市恵比寿町、大垣西濃信用金庫本店

信金合併に力尽くす

「支えてくださるお取引先や役職員の努力のおかげ。私だけが受章したのではなく、当金庫全体で受章したもの」と受け止めている」と感謝する。
1980年に前身の大垣信用金庫に入庫し、2014年に理事長に就任。16年の西濃信用金庫との合併でリーダースhipを発揮し、各地の信金合併の先駆けにもなった。「合

併後の人事交流を積極的に進めることで、営業や事務の統一を一気に加速した。当時は大変だったと思うが職員がよく乗り越えてくれた」と振り返る。
「コロナ禍で多くの事業者は売り上げが減っている。これから3年間で本業支援の集中期間になる」と気を引き締め、「お客さまが気付いていなかった提案をして、売り上げアップにつなげたい。そのためには引き続き職員の教育に努める」と話す。養老郡養老町有尾。